

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(令和元年7月解析分)

1 今月のトピックス

(1) 蚊が媒介する感染症に注意しましょう ～ Dengue熱～

🔍 [Dengue熱 厚生労働省](#) [検索](#)


蚊の多い季節がやってきました。

蚊が媒介する感染症の一つである Dengue熱は、海外で感染後帰国し、国内で発症した患者が、毎年、全国で 200 例程度、広島県でも数例報告されています。Dengue熱の原因となるウイルスは発症した人の血を吸った蚊（日本ではヒトスジシマカ）の体内で増え、その蚊が他の人の血を吸うことで感染を拡げていきます。

海外では、東南アジア、南アジア、中南米で患者の発生が多く、その他、アフリカ、オーストラリア、南太平洋の島でも発生があります。

今後、輸入感染例を起点に、県内で、いつ感染が広がるかわかりません。蚊が媒介する感染症の県内流行を防止するため、普段からの対策をお願いします。



症状等	発熱や関節の痛み、発疹といった症状が1週間ほど続きます。出血を伴う Dengue 出血熱となり、重症化することもあります。
予防方法	【蚊に刺されないようにしましょう】 <ul style="list-style-type: none">・日中、蚊の多い場所に行くときには、長袖、長ズボン等を着用し、肌の露出を避ける。・虫除け剤を使用する。 【蚊の発生を防ぎましょう】 <ul style="list-style-type: none">・雨水がたまった容器の水をなくす。・やぶ、草むらは刈取り、日当たりと風通しを良くする。 
その他	帰国後に発症した場合は、速やかにお近くの医療機関を受診してください。受診の際は、医師に、渡航先や渡航期間、渡航先での活動などについて詳しく伝えてください。

※イラスト出典「政府広報オンライン」

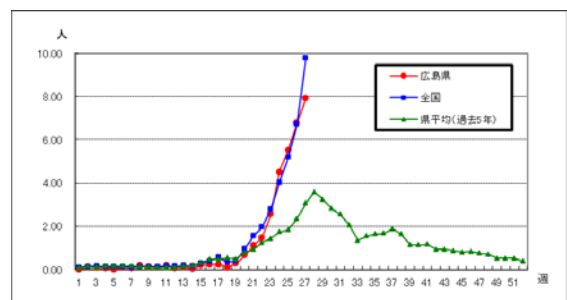
(2) 警報発令中です ～手足口病～


手足口病は、例年、乳児・幼児を中心に、夏季に流行が見られるウイルス性の感染症です。免疫のない大人も子どもから感染することがあります。

広島県においては過去2年連続で警報発令レベルの患者数が発生しており、今年も6月13日に警報を発令しました。

全国的にも流行しており、今後しばらくの期間は流行が継続すると考えられますので注意してください。

定点医療機関当たりの報告患者数 (R01 広島県)



症状等	<ul style="list-style-type: none">・3～5日の潜伏期を経て、口の中、手のひら、足の裏などに2～3mmの水疱性発疹が現れます。・通常、発熱は比較的軽く、高熱が続くことはありません。・ただし、まれに髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を伴うことがあるため、高熱、頭痛、嘔吐などの症状が見られた場合には、早めに、かかりつけ医を受診してください。
感染経路	<ul style="list-style-type: none">・飛沫感染、接触感染、経口感染
予防方法	<ul style="list-style-type: none">・手洗いの励行が基本となります。・特に、おむつ交換をするときには、排泄物を適切に処理し、しっかり手洗いをしてください。・タオルの共用は避けましょう。・有効なワクチンはありません。 

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和元年6月分(令和元年6月3日～令和元年6月30日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	9	0.02	0.05	↓	10	ヘルパンギーナ	327	1.15	1.15	↑
2	RSウイルス感染症	49	0.17	0.12	↘	11	流行性耳下腺炎	66	0.23	0.60	↘
3	咽頭結膜熱	179	0.63	0.94	↘	12	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	541	1.90	2.81	↘	13	流行性角結膜炎	58	0.76	0.98	→
5	感染性胃腸炎	1,572	5.54	6.10	→	14	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	
6	水痘	51	0.18	0.52	↘	15	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
7	手足口病	1,375	4.84	1.92	↑	16	マイコプラズマ肺炎	9	0.11	0.19	
8	伝染性紅斑	116	0.41	0.24	↗	17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	120	0.42	0.50	→	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	0.06	0.08	↓

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和元年6月分(6月1日～6月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	66	2.87	2.21	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	65	3.10	3.19	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	25	1.09	0.98	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	0.32	
21	尖圭コンジローマ	23	1.00	0.69	→	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.03	
22	淋菌感染症	20	0.87	0.65	↘						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

発生記号(前月と比較)

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)	
○急増疾患	手足口病 (0.88 → 4.84)
	ヘルパンギーナ (0.24 → 1.15)
○急減疾患	インフルエンザ (0.21 → 0.02)
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) (0.13 → 0.06)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	47	結核(47)〔西部保健所(6)、西部東保健所(2)、東部保健所(11)、北部保健所(2)、広島市保健所(14)、呉市保健所(9)、福山市保健所(3)〕
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症(2)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(1)〕
四類	11	日本紅斑熱(4)〔東部保健所(3)、呉市保健所(1)〕, レジオネラ症(7)〔西部保健所(1)、東部保健所(1)、広島市保健所(5)〕
五類	69	アメーバ赤痢(3)〔広島市保健所(2)、呉市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(E型, A型除く)(1)〔広島市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(6)〔北部保健所(4)、呉市保健所(2)〕, 後天性免疫不全症候群(3)〔広島市保健所(3)〕, 侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(3)〔西部東保健所(1)、東部保健所(1)、広島市保健所(1)〕, 水痘(入院例)(1)〔広島市保健所(1)〕, 梅毒(11)〔広島市保健所(11)〕, 百日咳(29)〔西部保健所(4)、西部東保健所(8)、北部保健所(15)、広島市保健所(2)〕, 麻疹(11)〔西部保健所(1)、西部東保健所(3)、広島市保健所(5)、福山市保健所(2)〕